

鹿角の小中校 **給食に八幡平ポーク**養豚組合寄贈、カレーに



鹿角市の小中学校で12日、給食に市内産の八幡平ポークを使ったカレーが登場した。八幡平小学校(阿部千鶴子校長、89人)では5年生16人が特徴の説明を受けた後、地元産の肉を味わった。

八幡平養豚組合(鹿角市)が地域の魅力を感じ地元への愛着を深めてもらおうと、市内の小中学校の給食1670食分の熟成肉「時のゆめ」計約170キ_ロを寄贈した。

八幡平小では阿部正樹組合長が「時のゆめは通常のを1カ月熟成させ、うまみが増してやわらかくなっている」と特徴を説明。八幡平ポークのキャラクター「BU太(ぶーた)」の着ぐるみも登場した。児童は配膳をした後、「いただきます」と声を合わせ、さいころ状の八幡平ポークが入ったカレーを味わった。

今野結翔さん(11)は「肉がやわらかく、うまみも感じた。地元のものを食べられるのはうれしい」と話した。

熟成肉を使った給食は27日にも酢豚として使用される。(本多恒顕)

(令和8年2月14日(土)秋田さきがけ新聞から一部抜粋)